

## プレゼンテーションⅡ「待降節と降誕節に行う信心」

白浜 満

### はじめに

#### ①目的

- ・ 典礼秘跡省指針「民間信心と典礼」（2001 年 12 月 17 日）に基づいて、日本の教会における典礼暦年、そして日本の文化風土に合致した信心のあり方を考える。

#### ②基本的な原則

- ・ 典礼暦年上の祭儀は、信心の他のいかなる表現や実践の形式よりも優位性をもつ。
- ・ 信心の品位を向上させ、合法性をもたせる。
- ・ 典礼と信心の間にある、あらゆる形式の対立や混合を避けさせる。

### 1. 待降節に行う信心

#### ①待降節の環 → 旧約の預言者たちとともに

- ・ 「義の太陽」（マラキ 3・20）であるキリストが到来するまで、神の民の希望の夜を照らしていた長い歴史に及ぶ預言者たちの光を象徴する。降誕祭まで日曜日ごとに順次ともされていくろうそくは、キリストに先立つ救いの歴史の幾つかの段階を思い起こさせてくれる。

#### ②救い主の母マリアへの特別な愛着 → 聖母マリアの心で

- ・ 無原罪の聖母マリアに先立つ 9 日間の祈り（ノベナ）  
創世記 3・15～ガブリエルの挨拶（ルカ 1・28）に至るメシア到来の預言を黙想する。
- ・ 主の降誕に先立つ 9 日間の祈り（ノベナ）  
主の降誕に向けたよい準備として 12/17～23 には晩の祈りへの参加が勧められる。

#### ③飼い葉桶 → 救い主の到来を準備する

- ・ 1223 年、アッシジの聖フランシスコがグレッッチョで行った事例に基づく。13 世紀頃から、その小さな模型として飼い葉桶の飾りが家庭で行われ始めた。聖書的起源：イザヤ 1・2-3。

### 2. 降誕節に行う信心

#### ①クリスマス・ツリーを飾る

- ・ エデンの園に生えていた命の木（創世記 2・9）、あるいは十字架の木を想起させるクリスマスの木は、まことの命の木そのものであるキリストを意味する。その飾りは当初、りんごとホスチアという象徴的なものであった。

#### ②主の降誕に関連して

##### 【前夜】

- ・ 各家庭でルカ福音の降誕物語を読み、共同祈願を行ったりして祈り、各家庭が主を迎

える生きた<飼葉桶>となるように心がける。

- ・主の降誕の夜半のミサに向けて、可能であれば信者が「教会の祈り」の読書にあずかることが勧められる。あるいは歌、朗読、その他の信心の諸形態に基づく要素を取り入れながら、祈りの集い、キャンドル・サービス、聖劇などを計画することはふさわしい。

#### 【夜半のミサ】

- ・幼いイエス像の安置のあり方を工夫する。
- ・奉納行列：貧しい状況の中で生きる人々への贈り物を奉納するという要素を強調。

#### ③クリスマス（イヴ）の食事（24日か25日）

- ・とくにこの日に家族がそろって主の降誕を祝う食事を行うことはふさわしい。

#### ④聖家族の祭日に関連して

- ・主の降誕の八日間中に祝う聖家族の祭日に合わせ、種々の儀式や祈りの工夫が可能。
  - － この日に家族全員に、一緒にミサにあずかるように勧める。
  - － 祝福の儀式に基づいて、子どもの祝福を行う。
  - － 両親が結婚式の日に関わった約束の更新を行う。
  - － これから結婚するカップルの婚約式。

#### ⑤幼子殉教者の祝日

- ・幼児虐待や墮胎など今日の社会問題を配慮し、いのちの尊さを教え、出産を待つ母親や養子縁組を望む両親を支援したり、子どもの教育を推進する民間信心の運動が増加。

#### ⑥12月31日

- ・一般暦の一年の終わりに、信心に基づくいくつかの信心儀礼が見られる。

【動機】 犯した過ち、神の恵みを十分生かせなかったことへの後悔と痛悔の感情を起し、神からいただいたすべての恵みに対する感謝をささげるため。

【儀礼】 長時間、聖体を顕示し、祈りや沈黙のうちに聖体礼拝を行う。一年の間、神からいただいた恵みを思い、賛美と感謝を表すために“Te Deum”を歌う。

#### ⑦1月1日

- ・神の母聖マリアを祝う。マリアはわたしたちが「いのちの造り主」であるキリストを迎えることを可能にしてくれたので、あらゆる恵みの泉である。
- ・一般暦の年の初めであり、互いに新年の挨拶を交わすときでもある。このような慣習を尊重しながらも、キリスト教的な意義づけが必要である。新しい年は「今おられ、かつておられ、やがて来られる」（黙示録1・8）キリストの支配のもとに置かれており、新年をキリストにゆだねるのである。
- ・この一年間、それぞれの信者やキリスト者共同体の思いや活動を導いてくださるよう聖霊の助けを願いながら“Veni, Creator Spiritus”を歌う習慣が広まりつつある。
- ・使徒座は1967年以来、1月1日を「世界平和の日」と定め、世界平和のために祈り続けている。この呼びかけに答えていく必要がある。

#### ⑧主の公現

- ・その年の復活祭やその他の主要な祝祭日の日を信者に公表するとよい。主の公現と復活祭の関連が明かにされる。
- ・幼子は御父からの最高の贈り物である。占星術の学者たちが幼子にささげた贈り物（マタイ 2・11）にちなんで、プレゼントの交換を行う習慣は望ましいことである。
- ・占星術の学者たちの名前（C+M+B）にちなんで家を祝福する慣習がある。家の扉に十字架を置き、新しい年号をチョークで刻み、同時に占星術の学者たちの頭文字（C+M+B）を付け加える。それは、キリストを通して祝福をいただきたいという（Christus mansionem benedicat）信者の望みを表す信心である。
- ・奉仕の活動や宣教活動のために、献金を集めるよい機会である。

#### ⑨主の洗礼

- ・ミサの中で水の祝福と灌水を行って、信者に洗礼の恵みを思い起こさせるとよい。

#### ⑩主の奉献

- ・「異邦人を照らす啓示の光」（ルカ 2・32）であるキリストを象徴するろうそくを祝福する慣習がある。教会だけでなく、各家庭で使用するろうそくの祝福式をミサ中に行う。
- ・ろうそくに火をともして行列することは、イエスが神殿に入られたことを表す。
- ・出産前後の母親の祝福を行うとよい。ただし、出産後の母親の祝福は、母親が子どもの洗礼式に参加できなかったときのみに行うべきである。
- ・修道誓願式を行うのに適している日である。